

平成19年度 東広島市ゆーすふる・チャレンジャー会議の活動

(1) 趣 旨

東広島市児童青少年センターの主たる利用者である児童青少年自身が、施設の運営に対する意見を述べ、事業の企画や準備、実施の中心となることにより、児童青少年の自主性を促進するとともに、センターを児童青少年にとって魅力ある施設とするため、東広島市ゆーすふる・チャレンジャー会議を設置する。

(2) 参加者

40名(東広島市内の中学生16名、高校生10名、大学生10名、社会人4名)

(3) 主な企画行事

スタート合宿 … 6月2日(土) 3日(日)
夏祭り … 7月29日(日)
わくわくドキドキキャンプ… 8月9日(木) 8月10日(金)
ふしぎの森のコンサート … 12月21日(金)



(4) 年間計画

出会いと親睦

- (スタート合宿 6/2,3)
- ・ゆーすふるメンバーの親睦を図るとともに、今後の行事における事前学習を実施する。
 - ・吉田少年自然の家にて実施

社会奉仕

- (街頭キャンペーンへの参加 6/24)
- ・薬物乱用防止街頭キャンペーンに参加し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、募金活動を行った。

社会奉仕

- (社会を明るくする運動推進大会への参加 7/1)
- ・青少年の立場から、社会を明るくする運動推進大会へ参加した。



夏の行事

- (夏祭り 7/29)
- ・児童青少年センターを会場とし、幼児・小学生を対象にお店を開き楽しんでもらうとともに、児童青少年センターの存在を広く知ってもらうことを目的として実施した。

(わくわくドキドキキャンプ 8/9,10)

 - ・豊かな自然体験を通して、たくましく生きる力と自主的・主体的に行動する力の育成、異年齢集団での活動を通して、思いやりの心や協力することの大切さを学ぶことを目的とし、東広島市内の小学5・6年生を対象に、キャンプを実施した。また、この事業を企画・運営することを通して、ゆーすふる・チャレンジャーの指導力やリーダー性を高めることも目的とした。



冬の行事

- (ふしぎの森のコンサート 12/21)
- ・幼児、小学生及びその保護者を対象にしたコンサートを企画運営することによって、参加者に音楽に親しむ場を提供するとともに、ゆーすふる・チャレンジャー自身の自主的活動を実施する意欲と実践力を高めることをねらって、「第7回ふしぎの森のコンサート」を開催した。
 - ・参加団体は、公募により決定。合唱、合奏、幼児の踊りなど、様々な演出があった。

(5) 成果及び課題

【成果】

- ・青少年が主体となって各行事を企画・運営することで、中学生から社会人に至る青少年の親睦が深まり、互いに協力し合って一事を成し遂げることの大切さも学んできている。また、これらの活動を通して、場に応じた振る舞いや幼児や小学生に対する接し方の大切さを実感することができており、社会の中で必要とされるコミュニケーション能力の育成にも役立っている。
- ・ゆーすふる・チャレンジャー会議の企画行事は、市民にも周知され参加者も多い。このことは、行事を企画する青少年にとって、やりがいを感じるものとなっている。
- ・社会奉仕との関係では、薬物乱用防止キャンペーンや「社会を明るくする運動」推進大会に参加した。中学生の中には、恥ずかしさが残る者もいたが、実際に活動する中で清々しい気持ちに変わっていったようである。社会貢献活動のよさを感じる場となった。

【課題】

- ・年間行事が固定されているので、内容を精選し参加者にとって魅力的な運営をしていかななくてはならない。行事内容を吟味するとともに、運営の方法についても円滑に行うことができるように改善していく必要がある。
- ・ゆーすふるメンバーが、企画会議に参加しやすい状況を作っていく必要がある。土・日の会議開催にしているが、今後もできるだけ集まり易い時に会議を開催していくようにする。

【ゆーすふるメンバー（青少年）の感想】

昨年に続いてスタート合宿に参加させていただきました。今回の合宿では、たくさんの人と仲良くなれたので、とても楽しく活動を行うことができました。小学生や幼児に楽しんでもらう内容を考えて、実行するのがゆーすふるです。今年は、このメンバーで楽しく活動ができるといいです。今回の合宿で、いいスタートで始められたと思います。これからの活動が楽しみです。

学校では体験できないこのようなボランティア活動に参加することで企画の大変さを学び、異年齢の人々とのコミュニケーション能力や他者に自分の意見を伝える力が養われていると感じました。



ゆーすを1年間やってみてよかったことは、やはりこのような異年齢の人達と交流できたことだと思います。交流したのは、ゆーすのメンバーだけではありません。夏祭りは幼稚園児や小学生を楽しませるために、キャンプは小学生を楽しませるために、冬のコンサートでは幼稚園児から大人まで全ての年齢の方を楽しませるために、頑張りました。

1年を過ごしてみてたくさんのことを学びましたが、特に新しく学んだことは「相手を活かす視点」です。今まではボランティアといっても自分が主体になり、積極的に自分が動き、活動するというものが多かったのですがゆーすふる・チャレンジャーは異年齢集団です。中学生と大学生は同じボランティアの一人とは言え、2者が同じようには行動してはメンバーのことを考えていないことになってしまいます。ゆーすふる・チャレンジャーの活動を成功させるために行動することはもちろんのこと、その準備段階でメンバーが準備活動を楽しめているか、という2段階の視点で見えていく大切さを体験できました。

